日本医師アマチュア無線連盟会報

No.71

第35回MARS総会に参加して

MARS会長 JA7AOM 及川 忠人

平成23年10月22日（土）ならびに23日（日）に東日本大震災により延期されておりました第35回MARS総会が無事開催され、有意義な総会と翌日の川越へのエクスカーションを楽しむことが出来ました。このことは JL1BGP 局井上文正先生、JL1XWR 局井上喜代先生御夫妻による周到な御準備により、第35回MARS総会が滞りなく無事に終わることができましたことを心から感謝申し上げます。

総会ではまず総会設営担当の井上文正先生の御発声により東日本大震災にて犠牲になった方々ならびに平成22年度～23年度に物故されたMARS会員諸先生方を合わせて黙祷を有りし日の姿を思いうかべながら行った。そして、MARS総会の開会が宣言された。

進行は JH7QFA 局渡辺孝志先生により例年通り行われ、議長は JR1CDJ 局大久保先生を推薦して、大久保議長を中心に議事が進められました。庶務報告は井上文正先生からなされ、続いて平成23年度決算報告がなされ合わせて国府田先生が監査報告を行いました。またアワード報告については東條純一先生 JH3AEF 局が現状と課題の報告を行った。MDネット報告は JH7QFA 局渡辺孝志先生が行い7MHzと3．5MHzの交信状況ならびに、電波状況、会員の消息等のことも合わせて報告を頂いた。また順序が都合で逆になりましたが、狭山先生により Silent Key になられたMARS会員諸先生へのお別れの Key がそれぞれのコールサインを呼び合わせて、73！とモールス信号にて黙祷しながら、物故された会員諸先生の冥福を祈りました。

次いで特別報告が JH7QFA 局渡辺孝志先生ならびに JA7AOM 局及川忠人会長から、東日本大震災を中心に報告された。渡辺孝志先生は宮城メディカルハムクラブの活躍や海岸の被害状況ならびに JM7USW 局故佐藤幸弘先生が津波の犠牲になられた状況等、現場の被害状況等を中心として報告がなされました。

JA7AOM 局及川忠人会長は岩手県医師会の東日本大震災に対応する活動の概略と郷里の大船渡市における大震災の津波の被災状況を中心にスライドと一部動画を用いて、被災地の現状と課題を報告した。その内容について会員諸先生方には静かに拝聴して頂いた。しかしながら流石に、宮古の海岸へ押し寄せる大津波の動画には大変な反響があり、津波の惨状が伝わったと思われた。已に7ヶ月が経過するのでありますが、復興・復旧への道のりが少しでも早く進むことを祈らずにはおれません。

今年のアマチュア無線の活動を振り返りますと、アマチュア無線が初動期には残念ながら大きな活動が為されなかったと云わざるを得ません。しかし現場被災地におけるアマチュア無線の通報が山田町の行政担当者に届き、自衛隊救助へのきっかけになり、津波による続発した火災により危険であった多くの被災者が救出されたことは、やはりアマチュア無線の大災害時の役割を再認識するに至りました。

4月の初旬に岩手県県南部の室根山にレピーターが地元と関東等の有志によって設置されて、そのことをきっかけとして、災害ボランティアセンターが東山病院の故岡崎宣夫先生の尽力で設置された。5月初旬に陸前高田市への千葉県「心のケア支援」チームに加わる機会があり、その時に被災地を訪問する時に地元のアマチュア無線家に大変お世話になりました。特に被災直後にはカーナビは無用の長物になり、道路の現状は目標になる建築物はほとんど流出していたので、瓦礫の中を暗中模索したことが印象的でした。その不安を安心に替えたのはこのレピーター通信による地元からの支援でありました。

その後 Wires のソフトを用いて岩手県沿岸部と内陸部とを室根山のレピーターを中心に構築され、6月一杯でノード局が10局以上になり、6月初旬の午前7時前に経験した震度5の地震の時に、岩手沿岸北部の Wires 参加アマチュア局の参加が相次ぎ、約20局の参加があり、幸いに被害は無かったが、陸前高田市の一部では、小学校に登校待機の指示が出て、午前7時45分にはその指示が解除された旨の確認を得るということが起こった。実に大災害後のアマチュア無線もインターネットを利用しながらの遠隔通信が可能となったわけであり、素晴らしいことと受け止め、9月初旬の医師会主催の東北医師連合会のシンポジウムに於いてもアマチュア無線の重要性を再認識することが必要である旨の発言をさせて頂いた。

その後最も被災被害の甚大であった大槌町の小学生と宇宙飛行士との交信が実現した。これはアマチュア無線盛岡クラブが主体として準備し、NASAの啓発行事の一貫として地元のアマチュア無線有志が協力して実施することが出来たのである。宇宙における様々な疑問をあらかじめ用意して通信の大切さ、またその可能性と夢を小学生に与えたことは、明るいニュースとして受け止められて、地元新聞紙上にも報道された。

新年の総会の予定は未定でありますが、これからの災害時のネットワークの構築等の検討が必要となると思われます。この課題はMARSの重要課題としてこれまでも取りあげられ、総会のシンポジウムとしては大門先生が会長の時代に検討された経緯があります。特に阪神淡路大震災の時に様々な反省がありました。これらの反省から打ち出された災害時非常無線の訓練についての位置づけは極めて重要に為っていきました。

特に平成10年の春から岩手山の噴火活動が盛んになり、それらの噴火時の対応や噴火を想定した被害予想地図等が作成されて、岩手山の近隣町村においては、継続的に避難訓練を実施して、アマチュア無線の有志もそれらの活動に加わることが出来ました。幸いにも噴火の状態にならないで安定したので、この活動は大災害時の通信手段としてアマチュア無線の重要性を示した出来事として認識されたと思われました。

時とともにそれらの災害時におけるアマチュア無線の役割については、残念ながら風化を余儀なくされつつありました。そのような時に今回の3月11日の東日本大震災が起こりました。アマチュア無線による通信も検討されたのです

が、移動手段の危険性や県本部等が自衛隊の通信機能に依存したこともあり、アマチュア無線は残念ながら活躍の場が無かったとも云えましょう。沢山のハンディ機が多くの関係団体から持ち込まれたのですが、それを上手に活用するに至らなかったことは残念なことでありました。

あまりにも大きな津波災害により、沿岸各アマチュア無線局との通信はわずかな活動に留まったと思われます。このことは日頃の活動が低下していたところに大災害が起こり、常時行って居ないことは非常時ではもちろん役に立たないことの証明であったと思い反省することが多かったのです。

小生が内陸部のリハビリテーション病院院長という立場で地元のホテルに沿岸被災地から述べ約180名の避難者が一時避難することになりました。その医療・リハビリテーション・ケアおよび保健活動の支援を八幡平市から依頼されて、薬剤の投与ならびに慢性疾患への診療を行いました。その中に沿岸部出身の方でアマチュア無線の免許とコールサインを持つ方が、たまたま我が病院にアンテナがあることに気づきアマチュア無線家であることがわかり、診療後のアマチュア無線設備のある部屋に案内して、HF帯にて千葉県の方と交信することが出来たので、合わせてその方のコールサインを言って頂き、交信をお願いして、避難者である方の交信が終了致しました。その方はあまりにも偶然で、まさか交信まですることになるとは思って居なかったと、アマチュア無線通信を行う事が出来たことが、とても嬉しいと云われ、「これは最高のリハビリテーションです」と仰っておりました。偶然に地元のアマチュア無線のまとめ役とも友人であったこともあり、旧交を温めることになり、アマチュア無線による仲間との交わりの不思議さを痛感しまた感謝した次第であります。またたまたま相馬市の方と通信することが出来てカード交換を致しましたが、福島の放射線被害の現場からの声に、励ましの言葉が言えそうで言えない現実を痛感致しました。しかしながら、あのような外にも出られず、家の中での待機の状態が長く続く場合の精神衛生管理はどのようにすべきなのか、岩手県では放射線の影響は県南部の一部を除いて少ないのが現状であります。しかしながら沿岸部被災民の方々が数ヶ月して、郷里にまた知り合いの所へ移る段階で、多くの方々が病院にも挨拶においでになりました。それでも帰る所があり、帰ることが出来る被災者は幸せであると思わざるをえませんでした。福島では郷里に帰ることさえ出来ないわけですから、そのことを考えると今回の地震・津波に合わせて原発事故が加わった複合大災害になったことは、とても残念なことであると思います。またこれほど悲惨な結末は信じられない思いであります。

今回の東日本大震災については、それぞれの地域での活動が沢山なされておると思われますのでそれらの活動をまとめることが大切ではないかと思われます。MARS会員諸先生におかれましては、ご多忙とは存じますが、それぞれの震災のみならず、それぞれの地域でのアマチュア無線を用いた通信ネットワークの構築等の現状等やご意見等も是非ともお寄せ頂き、これからのMARSの活動の参考にして参りたいと存じます。総会が半年延期されて行われましたが、とても有り難く、井上文正先生他関東地区の会員諸先生に心から重ねて感謝申し上げます。被災地の現場は復興の兆しが出てきております。先日に小生の郷里を訪ねて「心のケア」連絡会議に出席した時に復興、建築の槌音が少しずつですが、進んでおりとても嬉しく感じました。今後も少しでも被災地の復興が伸展することを願うものであります。

弔　辞

JM7USW　佐藤幸弘先生

佐幸先生、先生の訃報に接してから既に二か月が経ちました今、先生と本当のお別れの時を迎えております。三月一一日、あの巨大地震直後に先生とアマチュア無線による非常通信での交信が最後のお別れの言葉となろうとは・・・・・・今でも信ずることができません。当日午後二時三六分の大地震の揺れが収まり、私は入院患者、スタッフの安全を確認してから、アマチュア無線機を搭載した車に乗り込み、非常無線連絡として宮城メディカルハムクラブのメンバーに対して一斉呼び出しを行いました。県医師会から助成金を頂き、台原の労災病院と鶴ヶ谷のオープン病院の屋上に設置されているアマチュア無線極超短波の基地局を使用した非常無線で、まさに今回の大災害時の非常通信として運用されました。私の呼び出しに対して、真っ先に応答した局がJM7USW局、佐藤幸弘先生でした。先生は「今、大津波警報が発令されたので、先ずは安全地帯の確認を終えて、スタッフ達に安全地帯への緊急避難を命じ、私は更に、付近の住民に避難場所を伝達するために再び診療所にむかっております・・・・。そちら仙台の方は大丈夫でしょうか？」とスタッフ達を無事避難させ、更にご近所の方々の避難のお手伝いに向おうという責任感のためか、大変落ち着いたお元気なお声でした。私はまさ

か先生が大津波到来間近に、ご近所の方々のために、海側に向かっていたとは思いませんでした。そして「お互いに頑張りましょう！お気をつけて！」と返答して別れました。後に、奥様からお聞きしたところ、途中、病院スタッフ達の避難する車とすれ違い、引き返すよう叫びましたが、先生はそれを無視するように、残された住民を避難させるために、診療所方面に向かわれたとのことであります。

その数日後に、JH7QFA渡辺孝志先生から、先生が車の中でお亡くなりになられたとの訃報を無線で聞き、只々呆然とし、とてもすぐには信じられませんでした。

先生は宮城県医師会員の中でも、特段に「災害救助、そのための非常無線」に関して熱心にご活躍され、医師会報にも、バイクに無線機を搭載しての非常通信に関して報告をされておりましたね。また、昨年九月の蔵王での非常無線訓練にも一緒に通信訓練をし、忘年会、そして震災の2か月前には新年会でお会いして、近いうちに予想される大震災に備えて無線設備を点検しましょう、とお話ししたのに、・・・こともあろうに、災害時の無線通信にご尽力されてきた佐幸先生が、今回大津波の犠牲になられるとは、・・・そして、今回の先生との非常通信が、先生とのお別れの会話になるとは・・・。今は、無線機を前にすると、あの時の先生のお元気なお声が思い出され、先生のご冥福をお祈りするしかすべがありません。

先生の適切なご判断により、御家族並びにスタッフ全員が無事ですので、もう何も心配はいりません。われわれは、あらゆる困難を乗り越え、必ず、元の美しい松島、宮城を再建させてみせますので、その様子をお空から見守っていて下さい。そして、毎週月曜日の定期交信時にはわれわれの電波が必ず、遠いお空におられる先生にまで届くものと信じております。

宮城メディカルハムクラブを代表して、先生とのお別れの言葉を述べさせていただきました。どうぞ、安らかにお眠り下さい。

合掌

JH7EQW　湯浅　涼

MARS 会員都道府県別分類

ＪＡ１ 19局			
東京都	JA1FF	JA1BOW	JF1SXY
	JK1AIN	JL1BGP	JP1HIS
	JH7WKU	JR9FQO	
神奈川県	JH1IAA	JE1TNL	
埼玉県	JR1CDJ	JR1JIC	JE1MMK
	JL1LRJ		
茨城県	JI1VAH		
群馬県	JA1KXT	JR1SJD	
千葉県	JM1BIX		
栃木県	JO1RTV		
山梨県	なし		
ＪＡ２ 8局			
愛知県	JA2DQH	JH2QBQ	JR2AXV
	JG2XEJ		
静岡県	JA2BIV	JE2ANG	JE2KKI
	JO2DBR		
岐阜県	なし		
三重県	なし		
ＪＡ３ 30局			
京都府	JA3ASU	JH3SQM	JH3SQN
	JR3HFS	JR3JJQ	JF3BIE
	JF3ITN	JF3NXJ	
大阪府	JA3BQT	JA3LDH	JA3WKF
	JH3AEF	JH3MWR	JR3KBI
	JR3LJI	JE3RZA	JF3EKP
	JF3MTM	JJ3MIG	JL3SIK
	JO3VKD		
滋賀県	JF3PMG		
兵庫県	JA3XED	JH3GOB	
奈良県	なし		
和歌山県	JH3TCC	JF3JON	JI3CIN
	JJ3KUL	JM3BCQ	JN3ASW
ＪＡ４ 4局			
岡山県	JE4EWM(exJA5LDZ)		JG4JFW
広島県	JH4DPL	JH4UYB	
鳥取県	なし		
島根県	なし		
山口県	なし		

ＪＡ５ 3局			
香川県	なし		
徳島県	JA5GPJ	JA5POS	
愛媛県	なし		
高知県	JH5KAJ		
ＪＡ６ 5局			
福岡県	JA6BMB	JA6RQK	JH6IBM
	JG6DAO		
大分県	なし		
熊本県	なし		
宮崎県	なし		
鹿児島県	なし		
佐賀県	JR6EZJ		
長崎県	なし		
沖縄県	なし		
ＪＡ７ 20局			
青森県	JA7VAB	JR7BWP	
秋田県	JH7MSL	JE7MMC	
岩手県	JA7AOM	JA7PPA	JH7IIR
	JH7OLB	JH7XGQ	JR7QWT
	JE7EDF	JG7CRJ	
山形県	なし		
宮城県	JA7EVM	JH7CAI	JH7EQW
	JH7QFA	JR7CAD	JP7DMV
福島県	JA7FHH	JE7GFM	
ＪＡ８ 3局			
北海道	JA8JDQ	JA8RSJ	JI8MLV
ＪＡ９ 4局			
富山県	なし		
石川県	JK1QLR		
福井県	JA9SN	JH9HDD	JE9RWF
ＪＡ０ 4局			
新潟県	JA0CEP	JA0HGN	JH0LME
	JE0BWH		
長野県	なし		

＿＿＿は他エリアからの移動局

計100局（2012年3月現在）

東日本大震災の経験

JA7AOM 及川 忠人（岩手県）

1)東日本巨大地震の初動期の経過

2011年3月11日午後3時頃:

津山市内の百貨店食料品店舗にて買い物中に家内の携帯電話にメイルが入った。「死ぬほど恐ろしい激震のため孫と一緒に車で過ごした」との一報であった。すぐに長女夫妻の住居に帰り、午後４時半頃からテレビを見て、東北関東一帯に巨大地震が発生し、それにともない、桁外れの津波が起こり、太平洋沿岸の各市町村を襲っているという内容であった。何回も電話にて東八幡平病院の状況を知りたいと思ったが、繋がらなかった。しかし家内の携帯電話による外来看護師との連絡がとれて、南病棟にてスプリンクラーの破損により出水ならびに天上の板が落下するなどの事故が起こった。南病棟の患者さんを東病棟ならび西病棟へ、そして残りの患者さんを老人保健施設希望（のぞみ）に移送して、二日目を経過した。その間食事へのケアや病棟管理を看護部リハ部が実施して、最も困難な状況を切り抜けたとのことであった。

2011年3月12日:

終日テレビを中心として巨大地震のニュースを見ることが出来た。中々それらの内容が悲惨であり、しかも郷里の状況の状態が心配でならなかった。時間的に学会参加は止めて、盛岡にどのような経路で帰るかを考えた。午後長女の夫の努力により、13日朝の伊丹秋田便を予約することが可能となり、そのまま秋田空港への迎えを沢口運転手にお願いして、無事に空路で秋田経由により盛岡に帰ることの予定がギリギリに可能となった。

2011年3月13日:

13日の朝の伊丹秋田便を確保することが可能となり、9時40分には秋田空港に到着して、病院の運転手にお願いして、盛岡経由で病院に向かった。その間角館に於いて食料や基本的飲料水等を購入して、病院に到着したのが2時過ぎであった。

直ちに中軽米事務長から、損傷した202号室の現状や課題を視察して、副院長の小野寺先生および看護部長師長、リハビリテーション副部長、技師長等が集まり、簡単な打ち合わせを行った。特にガソリン確保が困難な段階での出勤体制を如何に支援するか等の問題が検討され、週初めにそれらの課題を検討する必要があることが申し合わされた。

岩手県医師会への対応については、検死を行う医師の少ないことが警察から要請されているとのことで、奥州医師会、北上市医師会ならびに盛岡医師会からも支援の体制が検討されているとのことであり、協力要請を受けた。郡医師会総務主要メンバーへの連絡をつけようとしたが、携帯電話が通じずに、翌日に再連絡して調整することにした。

このような中にもそれぞれの関係者の安否確認がなされていない場合が多く、これからの対応が重要であり、慎重を期すことにした。幸い災害初発時から岩手町の佐々木久夫理事が警察医としての立場から宮古市等への

現地への検死を目的に二日間滞在して大切な役割を果たすことが出来た。このことから医師会役員に呼びかけることにより初動期述べ6名の検案医を岩手郡医師会会員から送り出すことが出来て感謝でありました。

2)東日本大震災の経験と支援活動等の感想

2011年3月11日14:46に発生した東日本大震災は天災という範疇から云えば、1923年大正12年9月1日の関東大震災以来の戦後最大級の大震災となった。尊い命を失い、さらに全財産を一瞬のうちに流され、これからの行き先に恐怖と不安を持つ被災された方々に心からのお悔やみとお見舞いを申し上げたいと存じます。年の瀬を迎えて、未だに行方不明者が数千人、犠牲者を合わせると2万5千人以上の方々が犠牲になっていることは、決して忘れてはならない大災害となりました。それにもまして多くの地域住民を避難させ救おうと思い支援活動をしながら、犠牲になった方々があまりにも多く、合わせてご冥福をお祈り致したいと存じます。

小生は1946年生まれであり、終戦子として育てられました。しかし5人兄弟（二人の兄と二人の姉）の末っ子であったため、蓄音機で「父よあなたは強かった」「愛国行進曲」「軍艦マーチ」等を自由に聞ける環境下で成長致しました。父は農業高校の教諭であり、母は地元の小学校の低学年担当の教師でありました。

幼い頃よく母親は3月10日になると東京大空襲を思い浮かべ臨月でその犠牲になった末の妹のことを残念そうに悲しそうに話すのが習慣でありました。その母親が1945年の7月14日の釜石の艦砲射撃の時の恐ろしさを話してくれていました。地震と地響きと騒音がものすごく、想像を絶するアメリカ艦隊の釜石への艦砲射撃が行われたためであります。

今回、津波被災者が八幡平市に避難者として一時滞在して、12歳の時に艦砲射撃で父親を亡くした想い出を話しながら、今回の関東大震災についてお話をしてくれた患者さんが居る。その方は大槌で被災された方であり、津波の惨状を、とても釜石で経験した艦砲射撃に比べようが無いと話された。大槌町は津波対策会議を開いていた町の指導者である町長他幹部が津波で犠牲になった街であり、同時に火災も起こった惨劇的な被害を受けておりました。

小生は中学3年の春1960年（昭和35年）5月24日未明のチリ地震津波のことが忘れられません。この時の被害は甚大であり50名余の大船渡市民が犠牲となり、同級生二人が帰らぬ人となったのである。愛知県の日比野中学との交流がこの災害を契機としてなされ、多くの励ましの支援を受けたことが懐かしく想い出されます。またその時の支援が国際的で大きなドラム缶大の荷物の中に脱脂粉乳が送られており、袋に分けて家に持ち帰り飲んだ記憶があります。丁度小生の自宅が海抜

大船渡市大船渡町の惨状

米崎中学校の海岸線の被災状況

約20メートルの高台にあり、その下方には須崎川という小さな川が流れ氷上山を源流としていた。チリ地震津波の時には津波の余波がその川を上下するのを見て、不気味な恐怖感を持たせるものでありました。

陸前高田市内の被災状況（3月17日）

今回の東日本大震災では大船渡湾の津波の最高波高は23．6メートルとのことであり、丁度震災から1週間目の3月17日(木)に岩手県医師会より検案医としての支援を依頼されて、陸前高田市の米崎中学校の体育館における検案支援をした帰り道、大船渡市大船渡町の実家によることが出来た。比較的高台にあった小生の実家は無事に残っていましたが、襖の半分にまで浸水していたことを確認しておどろいてしまった。また消息がはっきりしなかった避難所に居た兄嫁に会うことが出来てほっとしたのでした。同級生からの情報で北部公民館に避難生活をしているとのことから元気な姉（兄嫁）に会えて帰路につきました。

筆者の生家が残りました

襖の取っ手まで波高の跡がありました

すぐ下までボートが漂流された

生家の周辺は瓦礫が山積して、数十メート

ル東には大きなタンカーの位置を制御するタグボートが漂流してあり、大津波の災害の大きさに驚き、これだけの大きな津波は小生の祖先(父親で10代目の伊達藩の「きもいり」をしていた家系)も予想しなかったのではないかと想った。幼少の頃小生の祖母(父の母親)はこの実家のある土地は海の津波も山津波も大丈夫な所を選んで建てた所との教えを想い浮かべました。

今回の東日本大震災の規模は869年の貞観地震が規模が相当大きかったらしく、最近の研究で宮城県・福島県沖の長さ200キロ幅100キロの断層があり、マグニチュード8．0クラスの地震であり、東北沿岸も3～4キロまで浸水していたことが地質調査や CPU 想定実験で明らかにしていたそうであります。したがって今回の巨大地震は1150年ぶりの歴史的巨大地震であったことがほぼ明確になったと思われます。

郷里の大船渡市は1960年昭和35年春のチリ地震津波被災を基本として大船渡湾口に津波防潮堤を約20年かけて施設した。湾口を中心とした防潮堤が大船渡湾を守ることを信じて、市民はこれまで生活してきたわけでありました。このことは他の三陸沿岸の町村も同様であったと想う。三陸地方はたびたび津波の被害に苦しめられてきた歴史的経緯がある。チリ地震津波の前は昭和8年の三陸大津波があり、また歴史を遡ると1896年明治29年の三陸大津波がある。この明治29年の津波では犠牲者が2万2千人と記録されているので、今回の東日本大震災の規模に匹敵するのではないかと想う。しかし当時の明治時代は日清戦争の直後であり、幕末戊辰戦争後の東北はどうしてもその立場が弱く、あまり被害が注目されなかったと思われますが、岩手出身の孤児30～40人が岡山の孤児院(石井十次氏)に収容された歴史があると伺っております。

湾口の防潮堤は吹き飛ばされました

大船渡線・大船渡駅は津波で流失しました

大船渡駅のプラットホーム

今回の三陸沿岸の地震・津波による被害

の巨大さは想像を絶するのであるが、例外的な村が久慈市の南方にある普代村である。普代村の和村村長が明治三陸大津波で302人そして昭和三陸大津波で137名の犠牲者を出していることから高さ15．5メートルの譜代水門と大田名部防潮堤が今回の巨大津波から町を守り死者ゼロを記録していることに、地域の指導者の見識に脱帽のみである。和村村長は退任の挨拶の時に「村民のため確信をもって始めた仕事は、反対があっても説得してやり遂げて下さい。最後には理解してもらえる。」と村の職員に呼びかけたという。

三陸の津波という大自然のもたらす天災への新しい挑戦がすでに始められ、これからの三陸の自然災害へのあり方と地域全体を含めた街づくりのあり方が問われているのではないだろうか。そのような意味では関東大震災の時に勇断を下した、後藤新平のようなスケールでの三陸広域復興計画が早急に立案されて、この岩手県が将来の地域モデルを目指すべき時であると想う。今地域の心のケアへの支援活動等に関わりながら、地味な活動の集積が私達が愛する地域への貢献に繋がることを信じて邁進すべき時であることを確信するものであります。また小生の二番目の兄の実家が地元のホテルを経営しているが、災害の翌日から復興を目指して活動して7月20日に大船渡市での復興第1号となり、支援活動の時にも宿泊させて頂き感謝であった。たまたま3月11日の津波の時にはホテルの3階に逃げて難を逃れた経験を話して頂いた。小生の実家に漂流して遺されたタグボートがホテル目指して衝突するのではないかとの方向で進んできたが、直前で左折して須崎川沿いを流されて行き、ホテルへの衝突も無かったので、そのための九死に一生を得たのであった。

須崎川上流の漂流したタグボート

このことは、津波の水の流れがとても急であると同時に、川沿いに流れていったことが幸いしたことであった。また最高の波高は大船渡湾で23．6メートルあったそうであり、我が生家の襖の取っ手まで津波の浸水がありました。それでも前庭には小型自動車がながされ、瓦礫の山でありましたが、小生の生家は微動だにせず動かず遺され、これも不思議なことでありました。何回か生家の状況を見に帰ったのですが、畳の下の床が津波による被害を受けておりましたが、その下に太い横木の基礎の支える枠組みがあり、この地域の大工を気仙大工という船大工の流れを江戸時代から受け継いでいるその伝統がこのような形で生かされたのではないかと、古い時代の技術力の高さに驚嘆した次第であります。

5月初旬から千葉県の「心のケア」支援チームに長年来の友人がおり、小生もそのチームに入り、地元の医療機関・保健福祉機関との連携の繋ぎ役を致しました。そして多くの被災支援者の活動を支援することをこれまで月に1回程ですが、活動を続けることが出来ました。実は岩手県が心のケアセンターを

設置することがほぼ内定していても、その内実が不明瞭であったのですが、次第に体制が整備される方向に進んでいることを喜んでいる次第であります。今回の震災では陸前高田市が最も被害が大きな地域であったと想いますが、息の長い支援活動を続けることが出来れば有り難いと思っております。

4月の初旬に岩手県県南の室根山にアマチュア無線のレピーターを挙げることが県南および関東の有志で進められ、その中に災害支援ボランティアセンターが一関市の民間病院に設置され、災害支援をサポートする目的での通信体制がじょじょに整備されて行きました。小生も東八幡平病院にアマチュア無線クラブ局を持っている関係で、2mバンドのノード局になる手続きをして、沿岸部のアマチュア局と内陸部のアマチュア局との交信が可能なネットが構築されました。約3ヶ月の間故岡崎宣夫先生のご尽力とアマチュア無線盛岡クラブの方々の支援そして沿岸部の多くのアマチュア局が協力してそのネットワークが出来上がりました。このネットは WiresII というインターネットを組み合わせたネットワークであり、緊急時の連絡網としては有事の時には極めて活動生の高いネットワークになると期待されております。毎週土曜日の夜にロールコールを行い、各局の情報交換が可能なレベルにまで整備されつつあります。これまでのハンディ機では430MHzですとレピーター通信ではダウンリンク（5MHz）が必要であるのですが、このネットではその操作の必要はなく、通信を切り替える時に数秒の待ち時間が出てしまいますが、それのみを我慢すれば十分に緊急時の情報交換可能となるものであり、今後各界の理解を得ながら支援の輪が広がることが期待されて、MARS としても支援体制の検討が必要と想います。

災害時非常無線通信網構築の提案

JH7EQW 湯浅 涼（宮城県）

今回の大震災発生直後から長期停電・通話制限による携帯電話、固定電話による通信が途絶え、さらに県内郡市医師会、健康センター集配車間に設置されている無線通信システム（MCA）も停止し、医療機関の情報が長期間途絶え、被害情報の把握・対応に大きな支障が生じ、被害を更に拡大したことは記憶に新しい。

今回、震災発生直後からも支障なく使用できた通信手段は公共施設を除いては「アマチュア無線」であった。とりわけ県医師会の援助を受け、東北労災病院と鶴ヶ谷オープン病院屋上に設置され、「宮城メディカルハムクラブ（JH7YFB）」が管理・運用するリピーター局（中継局）の存在であった。両中継局は停電時には、それぞれの病院の非常電源に自動的に接続されるため、今回の大震災直後からも通信可能であった。

本中継局は宮城県内の大部分のエリアをカバーできるので、アマチュア無線技士の免

許を有し、アマチュア無線局を開局していれば、停電時でも携帯電話よりやや大きめの携帯無線機(写真1)、あるいは自動車用バッテリーでも使用可能な固定無線機を用いて通信可能である。本中継局の通信訓練として、毎週月曜日午後9時過ぎから、太白区の水戸洋一先生(JA7TKC)と塩釜医師会の渡辺孝志先生(JH7QFA)が中心になり、安田恒人先生(JR7CAD、青葉区)、 沖津卓二先生(JH7MHG、青葉区)、谷田泰男先生(JA7EVM、青葉区)、大山健二先生(JA7MIJ、泉区)、鈴木研一先生(JR7HBF、太白区)、鈴木幹男先生(JA7DOR、宮城野区)、私(JH7EQW、泉区)、最近では佐藤俊一先生(JO7QVC、若林区)、姉歯秀平先生(JP7DMV、登米市)などが参加している。この非常時の通信訓練を兼ねた定期交信はこれまで35年間、途絶えることなく現在まで1866回(2011.10. 10現在)行われている。

写真1

さて、これらの中継局はわれわれドクターハムに限らず、当該電波の使用が許可されたすべてのアマチュア無線局長が利用可能であり、災害時の通信手段として大きな役割を担えるシステムである。以前には、酒田市の大火災時や阪神・淡路大震災時にはアマチュア無線局の運用が大きな役割を果たしたことは周知の通りである。さらに、携帯電話が使えない不感地帯(山岳地帯、海上など)での非常通信手段として、人命救助に貢献した事実は少なくない。すなわち、携帯電話はどこでも、いつでも利用可能という思い込みから、山村地帯などの不感地帯での通信不能による遭難騒ぎが報道され、また、今回の大震災時では、宇宙通信可能な特殊携帯電話以外は全く使用不可となった。一方、アマチュア無線の場合、中継局が健在であれば、山岳地帯など携帯電話の不感地帯でも十分通信可能なことが少なくない。さらに、直線距離にして10KM 程度であれば、中継局なしの相互通信も可能で、電源も内蔵電池の他、車のバッテリーが利用できる点、停電時の非常無線装置として極めて有用である。

このように宮城県のほぼ全域をカバーでき、停電時でも２４時間運用可能な２つの中継局が仙台市の二つの病院屋上にあり、災害時非常通信に備えていたが、今回の大震災時には残念ながら十分に機能しなかった。折角、県・市医師会、労災病院、仙台市オープン病院などのご支援により非常事態に備えて設置した二つのアマチュア無線中継局のより効果的な運用を行うことにより、会員諸先生のための非常通信網の構築に寄与するものと思い、本提案を行うので、県・市医師会でご検討頂け

れば幸である。

このアマチュア無線中継局を利用して通信するためには、会員の先生方の医院のどなたかにアマチュア無線の資格を取得することと、アマチュア無線局を設置・開局する必要がある。アマチュア無線技士の資格は第一級から第四級まであるが、非常無線のためには、最も簡単な第四級の資格で十分である。この第四級アマチュア無線技士の資格は土・日に５時間、計１０時間の講習を受講することで簡単に取得できる。この資格は医師免許と同様、書き換えなしで生涯有効である。資格取得後にアマチュア無線局を開設することになるが、無線機・アンテナなどの設置、開局手続きなどを業者が一切を請負、出費総額は１０万円前後でアマチュア無線局の免許が交付される。設置された無線局の運用は資格取得者のみの運用が原則であるが、非常時には特例として、無線機近くに居る人が無資格でも運用可能となった。したがって、各医療機関にアマチュア無線局を設置するには、院長以外のスタッフ、家族（年齢制限なし）でも土日の講習により運用資格を取得でき、１０万円以内で無線局を開局できる。そして、災害時の携帯電話、固定電話が使えない事態でも非常通信が可能な設備を持つことになる。出来ることなら、院長ご自身が資格を取得し、無線局を開局して頂ければ、「宮城メディカルハムクラブ」の一員として、非常通信のみならず、趣味として無線の世界を楽しむことで新たな世界が開けることと思う。

写真 2

当「宮城メディカルハムクラブ」は毎年9月9日（救急の日）前後の土日に蔵王山麓の温泉地で非常通信の訓練を行い（写真2）、全国のアマチュア無線愛好家と交信し、交信証を発行している（写真3）。来年の9月1日の防災の日にはわれわれドクターハムも非常通信部門として参加を予定しているので、一人でも多くの会員が自院に無線局を設置して頂き、災害時医療はもとより、災害時非常通信にも貢献できることを願っている。

写真3

（仙台市医師会報 東日本大震災特集号より転載）

第35回MARS東京総会開催

JL1BGP 井上文正(東京都)

2010年4月の沖縄総会で、第35回MARS総会を2011年4月9日の日本医学会総会に合わせて東京で開催することが決まり、私が幹事を引き受けることになり、帰京後早速準備に取りかかった。

7月に日本医学会総会の事務局からソシアルイベントへの参加についての打診があり、今回も医学会の一行事として参加することにした。ソシアルイベント打ち合わせ会議にはゴルフ、テニス、ラグビー、囲碁、卓球、剣道、ボーリング、医科芸術、軽音楽など多くの参加申し込みがあった。

MARS総会会場をホテルニューオオタニに設定し、会員の先生方に案内状を送り27名から参加の申し込みがあり、その後総会の詳細についての案内を送付した。2011年3月11日午後2時46分東日本大震災が発生した。私の家でも大きな揺れで家具やテレビが倒れるのではないかと心配したが、住まいでは全く被害はなく、診療所の事務室のカルテラックが倒れ、カルテが散乱して大変なことになっていた。夕方の診療に間に合うようにと大急ぎで片付けをしていたが、この間にテレビでは太平洋沿岸の津波による被害の模様が映し出され、大災害であることが報道されていた。東京では夕方の帰宅時に電車が全て止まってしまったために、自宅に帰れない人が各駅の周辺に大勢集まって大混乱になっていた。

この地震による福島原発の事故で放射能漏れが起こり、さらに電力不足による大規模停電を防ぐための手段として関東全域で計画停電が実施され、首都圏の交通麻痺、商店の営業時間短縮等混乱が続き、我々開業医も停電、節電の影響を受けることになった。このような情勢のため首都圏で人が集まる行事は次々と中止となり、日本医学会総会も中止が決まったため，急遽及川会長と相談の上MARS総会を中止することにした。

夏場の電力消費が多くなる時期には電力不足が起こることが懸念されたため、冷房や照明が節約され、薄暗く、蒸し暑い東京の夏となった。

秋には何とかMARS総会を開催したいと考え、首都圏の節電対策が解除されたところで10月22日(土)の総会開催を決め、会員の先生方に案内を送付。開催時期がずれたために参加の先生はいつもより少なくなってしまった。

池袋のホテルメトロポリタンで開催された第35回MARS総会には17人の先生方が参加した。東日本大震災ではMARSのメンバーである JM7USW 佐藤幸弘先生が犠牲になってしまった。総会に先立ち震災で亡くなられた方々のために黙祷を捧げ、総会が開始された。また前回の総会以後亡くなられたJA7RTM 星康人先生、JR3HGY 土屋忠彦先生、JF1EJS 奥谷雅生先生とともに4人の先生のためにJA3ASU狭山信矩先生にサイレントキーを打っていただきあらためて黙祷を捧げた。

総会は JR1CDJ 大久保先生が座長となり、

JA7AOM 及川会長の挨拶の後平成22年度庶務報告、事業報告（MDネット、MARSニュース、MARSアワード）、会計報告、MARSホームページ報告、さらに平成23年度の計画について審議が行われた。今回アワード抽選は該当者がなかった。

総会に続いて東日本大震災で被害を受けた東北の状況について JH7QFA 渡辺孝志先生には塩釜市内の震災直後の様子について、JA7AOM 及川先生には震災の状況と岩手県医師会の活動についての説明が行われた。

総会終了後の懇親会では参加者の近況について報告があり、大震災後の大変なときではあったが楽しい時間が経過した。

翌日10月23日（日）は天気も良く、バスで埼玉県川越市に行き小江戸川越の散策を楽しんだ。喜多院では「徳川家光誕生の間」、「春日局の化粧の間」などを見物した後、境内の一角にある「500羅漢」を見て回った。蔵作りの町並みにある「時の鐘」、「アメヤ横町」などを散策してから料亭「いも膳」に移動し、川越名物？サツマイモの会席料理を楽しんでいただき、次回の総会での再開を約束して解散となった。

今回は日程の変更など大変ご迷惑をおかけしましたが、無事に総会が開催できました。ご参加いただいた先生方にお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

MARS総会・懇親会参加者(順不同)

1	JA1BOW	宮本 晃	9	JA7AOM	及川 忠人
2	JR1CDJ	大久保 嘉明	10	JH7QFA	渡辺 孝志
3	JH7WKU／1	小泉 久仁弥	11	JF3MTM	柴田 敏弥
4	JK1AIN	中村 幸伸	12	JH3SQM	郷原 憲一
5	JH3GOB	稲見 修	13	JH3SQN	郷原 望美
6	JL1LRJ	安齋 雅夫	14	JA3ASU	狭山 信矩
7	JA1FF	国府田 守雄	15	JL1BGP	井上 文正
8	JH3AEF	東條 純一	16	JL1XWR	井上 喜代

MARS AWARD

Ⅰ. アワード発行状況

(2010.4.1.～2011.3.31.)

①MARS 医学アワード

2009 年度に No.171 まで発行。2011 年 10 月に No.172 を発行しているが、2010 年度内には発行なし。

②MARS 医学アワードⅡ

クラスB JH7MGJ 中野OM (特記なし)

Ⅱ. 会計報告 (2010.4.1～2011.3.31)

収入の部:

前年度からの繰越	1,898 円
合計(A)	1,898 円

支出の部:

AWD 送料(JA)	240 円
リグ送料他事務費	1,200 円
合計(B)	1,440 円

合計 (A-B) = 458 円 → 次年度に繰越

参考:年間賞は本年度該当者なし。

Ⅲ. MARS 医学アワードをめぐり → 総会討議事項

現在発行している二種類のアワードの内、旧来から発行を継続している「MARS医学アワード」は、賞状用紙それ自体があと1枚しか残っていない。ただちに発行中止というわけにもいかず、また当連盟の大事な事業の一つなので、引き続き発行すべく、賞状印刷の必要がある。が、本部会計でお取り計らいいただく他、方法はないと考えられる。

平成22年度 会計報告 JL1BGP 井上文正 平成23年10月22日

収入の部	予 算	決 算
繰越金	1,285,695	1,285,695
会費収入	800,000	528,000
その他		
沖縄総会余剰金		139,628
利子		241
東京都医師会(医学会総会ソシアルイベント)		420,000

合計(A)	2,085,695	2,373,564

支出の部	予　算	決　算
MARSニュース	500,000	252,315
MARSアワード	27,000	0
ホームページ管理費	120,000	110,880
送料通信費	50,000	0
総会助成金	100,000	0
事務用品費	5,000	0
事務員謝礼	60,000	0
慶弔費	50,000	0
雑費	5,000	0
ホテルキャンセル料		187,000
合計(B)	917,000	550,195
(A)-(B)=次年度繰越額	1,168,695	1,823,369

会計監査報告

帳簿、通帳、領収書等を厳正に確認した結果、会計は適正に行われていることを証明します

平成23年10月22日　　監事　　ＪＡ１ＦＦ　国府田守雄

平成23年度予算案

収入の部		支出の部	
繰越金	1,823,369	MARSニュース	500,000
会費収入	500,000	MARSアワード	20,000
合計(A)	2,383,369	ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ管理費	120,000
		送料・通信費	30,000
		総会助成金	100,000
		医学会総会ソシアルイベント	230,000
		事務用品費	5,000
		事務員謝礼金	60,000
		慶弔費	50,000
		雑費	5,000
		合計(B)	1,123,000

(A)－(B)＝次年度への繰越金　1,260,369

MARS・MD-net on 80m band (2010.4.～2011.9.)

2010 年 4 月 7 日	4	(KXT:難聴にて QRT)
2010 年 4 月 14 日	7	
2010 年 4 月 21 日	7	
2010 年 4 月 28 日	7	
2010 年 5 月 5 日	8	
2010 年 5 月 12 日	6	
2010 年 5 月 19 日	6	
2010 年 5 月 26 日	7	
2010 年 6 月 2 日	7	
2010 年 6 月 9 日	7	
2010 年 6 月 16 日	6	ﾊﾞﾀﾊﾞﾀいう QRN
2010 年 6 月 23 日	7	0620 から QRN↑ 0632 静かに
2010 年 6 月 30 日	6	
2010 年 7 月 7 日	7	
2010 年 7 月 14 日	7	
2010 年 7 月 21 日	7	(今年は暑い！)
2010 年 7 月 28 日	8	JH7EQW:30 年ぶりｶﾝﾊﾞｯｸ
2010 年 8 月 4 日	7	3←→7はすっかり悪い
2010 年 8 月 11 日	5	
2010 年 8 月 18 日	6	
2010 年 8 月 25 日	5	(KXT:犬の入院で休み)
2010 年 9 月 1 日	7	
2010 年 9 月 8 日	7	
2010 年 9 月 15 日	6	AOM:ななかまど色づく
2010 年 9 月 22 日	6	
2010 年 9 月 29 日	8	

2010 年 10 月 6 日	9	全国FBにつながる
2010 年 10 月 13 日	6	
2010 年 10 月 20 日	9	
2010 年 10 月 27 日	7	
2010 年 11 月 3 日	5	
2010 年 11 月 10 日	8	
2010 年 11 月 17 日	9	BWH:山が白くなり始めた
2010 年 11 月 24 日	8	
2010 年 12 月 1 日	9	
2010 年 12 月 8 日	8	
2010 年 12 月 15 日	6	
2010 年 12 月 22 日	9	
2010 年 12 月 29 日	8	
2011 年 1 月 5 日	7	JR3HGY last QRV
2011 年 1 月 12 日	7	
2011 年 1 月 19 日	6	
2011 年 1 月 26 日	5	vyNG Condx
2011 年 2 月 2 日	8	
2011 年 2 月 9 日	5	
2011 年 2 月 16 日	7	
2011 年 2 月 23 日	7	(KXT:ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ)
2011 年 3 月 2 日	6	
2011 年 3 月 9 日	6	
2011 年 3 月 16 日	8	
2011 年 3 月 23 日	7	
2011 年 3 月 30 日	9	
2011 年 4 月 6 日	7	
2011 年 4 月 13 日	8	QFA:実はｶﾞﾗｸﾀの中から QRV
2011 年 4 月 20 日	9	

2011 年 4 月 27 日	8	
2011 年 5 月 4 日	0	GWにつきみなさんお出かけ
2011 年 5 月 11 日	9	
2011 年 5 月 18 日	8	
2011 年 5 月 25 日	6	LME:2 年ぶり
2011 年 6 月 1 日	5	
2011 年 6 月 8 日	6	
2011 年 6 月 15 日	6	
2011 年 6 月 22 日	7	
2011 年 6 月 29 日	6	梅雨明け、暑い。
2011 年 7 月 6 日	8	
2011 年 7 月 13 日	8	JR1SJD;QRV

2011 年 7 月 20 日	7	
2011 年 7 月 27 日	6	JM7USW の訃報
2011 年 8 月 3 日	5	
2011 年 8 月 10 日	6	
2011 年 8 月 17 日	6	(KXT 休み)
2011 年 8 月 24 日	6	8 月上旬 JF1EJS 没→黙祷
2011 年 8 月 31 日	8	
2011 年 9 月 7 日	8	
2011 年 9 月 14 日	8	
2011 年 9 月 21 日	7	
2011 年 9 月 28 日	7	

日本医師アマチュア無線連盟(MARS)の活動と入会方法について

MARS は、1977年(昭和52年)に創設されたドクターハムの親睦のための団体で、既に35年の歴史を持ち、次のような活動を行っている。

1)総会と懇親会
毎年4月の第一土曜日の午後、全国各地で総会と懇親会を開催している。
(平成24年は6月9日に大阪市で開催予定)

2)毎水曜日の朝、3.565MHz(05:30～06:30)及び 7.060MHz(06:30～07:00)付近でロールコール(MD ネット)を行っている。

3)日本医師アマチュア無線連盟会報(MARS ニュース)を発行している。

4)MARS 医学アワードおよび MARS 医学アワードⅡの発行。

5)クラブ局(JM1ZZM)を設置している。

6)MARS のホームページを開設している。
URL は http://www.jmars.jp/
(談話室へのパスワードは mars)

事務局:
〒175-0092 東京都板橋区赤塚4－17－11
井上医院内
日本医師アマチュア無線連盟
電 話 03－5968－5777
ＦＡＸ 03－5968－5778
E-mail fumimasa@cb3.so-net.ne.jp

会費 : 入会金 5,000 円、年会費 8,000 円

入会方法:事務局にご連絡下されば、入会書類をお送りします。

会長 及川忠人(JA7AOM)

金魚の糞

―JH3AEF の XT2AEF 運用記―

JH3AEF 東條純一（大阪府）

確かあれは大阪国際交流会館ラジオクラブ JI3ZAG（筆者が所属する社団局）の新年会の時だと記憶します。まことに申し訳ないことに、私は例によって大遅刻での出席でした。月例会の金曜日、私は夜診がある。会の進行がどのようになっていたのかも把握できない雰囲気の中、JA3VWT 中野幸紀先生のお話の後半の部分を拝聴しました。先生を中心に大学院の方で昨年度より西アフリカ電波利用促進国際協力センター（CRIOR）を立ち上げ、西アフリカの発展途上国ブルキナファッソ(Fig. 1)の大学と協力して無線 LAN の構築を目指し活動を開始している。昨年は事前調査年、今年は第一年度の活動に入るとのお話でした。

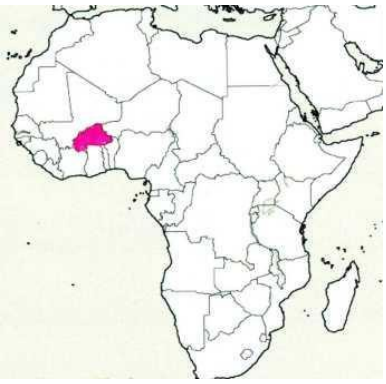


Fig. 1

何より私の関心事はその無線 LAN に何とアマチュア無線の V,UHF 帯を利用しようとしておられることでした。となると、ブルキナファッソ（XT2）の政府機関が発行するアマ無線の従事者免許、無線局免状も当然のことながら必要となります。そうたやすいことではなさそうに思えるが。会の終了後、先生にそっとおうかがいした。すると答えは単純明快。大丈夫、大丈夫。次に、活動は大学としての事業だけれど、一般人も参加させてもらえるのですか、私は無線 LAN の構築のことなど全く解らないのですが。この問いかけに対しても、どうぞ、どうぞ。これまた歯切れが良かった。

二月の例会で再び確認。何も解らん人間が大学の研究活動班にくっついていくだけになります。本当に金魚の糞ですよ。いやいやアマ無線もやるんですから、と、何の抵抗もない答えであった。

よっしゃ、それなら私は皆さんが活動しておられるあいだ、持って行った HF の Rig の番をしていたら良いのだ。そーかそーか。これは面白いことになりそうや。三月の例会のときには周りもすっかりそのつもりになっていただいて何だか壮行会のような雰囲気に包まれていた。

中野教授の目的は途上国の更に地方に分け入ったところ、即ち、商業ベースから見放された地域の人達にも、我々が享受するインターネットを、回線料などに縛られず利用してもらうということだそうだ。即ちアマ無線 LAN なのだ。

とにかく XT2 でアマ無線の免許を取得せねば仕事は始まらない。そのようなことで、すでに昨年から取得に向けての行動を続けてこられていた。そこに浮かび上がってきたのが設立間も

ない XT2 のアマ無線連盟の会長 Hugolin Pooda 氏 XT2HB である。彼には今回、あらゆる面でお世話になりっぱなしであったが、不思議なことに、彼は我々の XT2 滞在中は期間を通して国外におられ、全くお顔を拝謁したことがない。

次々に押し寄せる難題。

先ず最初はVISAの問題であった。出発に合わせて確実に VISA は取得できるはずであった。そこへ東北関東大震災、それに続いて福島の原発事故。確かに悪夢の連続ではあるが、こともあろうに XT2 の東京大使館は受け付けた書類はほったらかしで本国にさっさと引き上げてしまった。

そんな馬鹿な、そんなことされたら我々の入国はどうなるのだ。

それではと中野先生のとられた手段はパリにある XT2 大使館に電話で直談判、我々がパリに着く午後六時を過ぎる超時間外に特別に XT2 入国 VISA を発行していただくという、我々からみると全く不可能としか思えない快挙をスンナリとこなしてしまわれたのだ。さすが在欧長期、しかも彼の地で要職をこなしてこられた氏の手腕の一部を垣間見た一瞬であった。これならどこまでも金魚の糞で安泰、安泰。

今までに無い大荷物。

ON AIR 出来るなら HF 機にリニアーAMP、ゲインのある ANT、40m や 75m にも出るのであれば其々に使用するワイヤー類、アース棒、単線、安定化電源、同軸ケーブル 5D2V 10mx2、20mx1、30mx1、キーヤーにテーブルタップ類、テスターに ANT アナライザー、コネクター類、FUSE 類、雑索類、工具類、懐中電灯、その他諸々。

以上は普段の旅行には全く縁のないもの。衣類などの生活用品はほんの申し訳程度にとどめることになってしまった。しかし、暑い国での野外活動、比較的蚊の発生の少ない乾期とはいえ、防蚊対策として長袖の衣類だけは省くことはできない。2006 SEANET OSAKA ICOM とロゴのプリントされた長袖 T シャツは実に有用であった。電池式の長時間携帯蚊取り、除虫菊の渦巻き蚊取りも忘れず携えた。特に電池式のほうは現地人にはもの珍しいらしく、帰途、はずし忘れて腰にぶらさげたまま出国手続きをしていたら、回りの職員が珍しそうに人垣を作って見入っていた。Hi, mosquito killer, no problem. 興味があるのか How Much? ときた。そんなの忘れた、適当に 3$、、、SW を切ってポケットにポイ。

駄目とはいわなかった。

Rig は IC 706 だから大した大きさではないが、リニアーが心配であった。それでも今回持参した THP の最新機種 HL 550 FX 500W OUT は外函をはずし内函だけにすれば大き目のスーツケースに余裕でおさまってくれた。重量 9Kg。

航空会社 AF の規定では携行荷物は各 23Kg まで、三辺の総和が 158cm までとの制限があった。二つのスーツケースは内空に未だ余裕があったが重量では測ったように制限ぎりぎりに仕上がった。それでも空港のカウンターでクレームが出たときのために、10m の同軸を外のポケットにいれておき、いつでも機内持ち込みに変更できるように用意はしておいた。

問題は ANT である。JI3ZAG 皆様のお勧めもあり HEX BEAM のポータブル版を取り急ぎ注文したが、製造中止。急遽、数社のメーカーをあたってみた。結局、多バンドをのせられ比較

的小振りなものが MINIMULTI ANT でみつかった。

HX 52A 5BAND 2ele x 2 Phased array ANT である。メーカーに交渉して上の基準内に収まるように梱包も小さくしてもらった。性能について社長曰く大好評と。自社の製品を悪く言う社長もなかろうが、入荷後直ちに組み上げて仮設してみた。組み上げはいたって簡単。アナライザーによるスペックも申し分ない。材質も加工も悪くない。それならと運用してみるに、私が今集中している 12m band では現用 3ele Step IR に大きな遜色は感じなかった。

いよいよ空港へ。

三つ目の荷物になるこの ANT だけは別料金にならざるを得ないがそれよりも security で引っかからないかが心配であった。私の前にいた外人はこともあろうに木刀を丸出しのまま手荷物で預けようとして引っかかった。さて私の番、「長細いこの函なんですか。」その場の責任者風の紳士が問いかけた。「通信関係の ANT です」「長い ANT ですな、HF 用ですか」「良くご存知で」こんなところで駄目と言われたらもともこもない、そこで貴重品袋から英訳された従免を出し示して「決して怪しいものではありません」さらさらと目をとうした責任者風曰く「これはこれは一級の大先輩ですか」「どちらまで」「一寸西アフリカの方へ」「私、二アマで今更勉強もね、、、」といった具合で握手までしてくれ no problem。ちなみに XT2 までの ANT の別料金は ¥18,000.- でした。

XT2 入りは果たしたが。

便待ちで CDG 空港近くのホテルで一泊、翌朝の便で XT2 に向かう。地中海を一跨ぎ、7X の西部をまっすぐ南下する。トランスアトラス山脈を越えて南側は赤茶けた砂の大地、数年前のモロッコ旅行を思い出す

機は途中 5U NIGER の Niamey に寄港した。何でもこの国は資源国で XT2 とは大違い。乗客の 7～8 割が降りていった。今まで気がつかなかったが、その中に多くの明らかに日本人ではないアジア人が混じっていた。

機は再び飛び上がり一時間弱の飛行の後、ようやく XT2 のワガドグ空港に着陸した。二日にわたり 17 時間あまりの長旅である。

ところが、関空でも、パリ CDG 空港でも問題にならなかった ANT の細長い函が遂に XT2 入国の security で引っかかった。真っ黒の顔をして目だけぎらぎら光らせた軍服の係官が私を呼び止めた。「それ何」「通信用の ANT です」手振りで開けという。中野先生が横からすっと飛び出してきて仏語でペラペラ。

とたんに行け、行けの手振り。ああ神様、中野先生様。

空港の建屋も屋内は至って薄暗くて木造とも、プレハブとも、、、われわれのイメージする首都の空港とは趣を異にする。正面を出たら即地道。砂埃と言おうか土ぼこりといおうか、赤茶けた粉塵が足元から舞い上がる。空港から市街地に通じる道路は車道だけはさすがに舗装されているが、それは道路の中央よりだけ、両脇には広く地道が残されていた

とにかくホテルに落ち着いたものの、ベッドからはイモリが飛び出すは、シャワーの湯は出ないは、うーーん、、、、まあ operation が始まったら寝てる暇もなかろうし、これでも良いか。

夕食は中野先生のご案内で日本人経営の居酒屋風レストランに。良く冷えた現地のビールをいただき、長時間の航空機でのストレスも

少しづつ失せ始めた頃、突然停電が。我々が手首や首から下げている電池式蚊取りのランプだけが闇の中をユラユラして、何か異様な光景である。現地の人達は一切そのようなものはしていない。蚊に刺されないのだろうか。しばらくするとパッと電灯はともったが自家発電が動き始めたのだそうだ。

平和ボケの日本人。

食事も進み午後の9時をまわった頃、交通事故でもない、花火の音でもない、割合に澄んだ音だが腹にこたえるような爆発音のようなものを聞いた。

我々は「御祭りですか？　花火ですか？」

店の主人曰く「何か大層なことにならねばよいが、、、」

ホテルに帰ると玄関にあるテレビに何人かの人が見入っている。明らかに政府の要人と思しき人物がながながと演説をしている。とにかく部屋に入って水のシャワーを浴びるとベッドの上でバターン、キュー。イモリも、効きの悪いクーラーも問題ではなかった。

しかし、往来から聞える車の音が何と無くギスギスし、夜半を過ぎても移動しているように聞える爆竹音を何度か夢見心地で聞いたような気がする。

朝、私は普段のように六時に目が覚めた。太陽は未だ昇っていないが外は明るく、間もなくジリジリ照りつける暑い一日が始まる気配である。ホテルのフロントマンも特に変わった様子も無く挨拶をするので、昨夜の爆竹様の音のことなどすっかり忘れて約一時間ほどの散歩に出かけた。手持ち時間の約半分を往路に、残り半分を帰路にという配分で歩くのが私流の旅行先での散歩のスタイルである。

早朝でもあり、往来の車も、その脇を走る地道の自転車も、バイクもまばらである。この国ではバイクよりも自転車の数が圧倒的に多い。道路の両脇には所々空き地を残しながら平屋の建物が続くが、築年数が永いのかこぎれいに見えるものはほとんどない。商うものは、家具であったり、古い車からはずしたエンジンであったり、衣類であったり、薬屋であったり、食堂であったり様々であるが、何を商っているのか業種を特定することの出来ない建物が非常に多く感じられた。(Fig. 2)

Fig. 2

道端では自転車の修理屋がやたら目に付いた。修理屋といっても板にチェーンの切れ端をぶらさげたり、チューブのゴムをぶらさげたりしたものを看板に商いをしている。修理するのも

Fig. 3

また道端の土の上である。それでも利用者はそこそこあるようで結構繁盛していた。(Fig.3)板を打ち付けて作った粗末なテーブルと長いすを出して朝食を食わせる店、何を食べさせているのかと見ると、大きなビニール袋に入れて持ってきたリゾット風の飯をボールに入れて食わせている。道端で土壷から水を売る者、(Fig.4)

Fig. 4

この土壷は結構需要があるらしい。お茶らしきものを飲ませるテーブル、小さいマンゴウをテーブルに広げて売っているおばさん、写真を撮らせてもらおうとカメラを見せて話しかけるとにっこり笑ってフン、フン、だがカメラをかまえると店をほったらかして小走りに遠のいた。(Fig.5)

Fig. 5

いずれの国の朝市もお国柄がうかがえてほほえましい。興味を引いたのは町医者の看板か?内科、婦人科、小児科、X 線科とある。(Fig.6)

Fig. 6

帰路につく頃には自転車の数は急激に増え通勤時間帯に入ったのであろう。その中をバイクがすり抜けていく姿が印象的であった。しかし、バイクがあふれる東南アジアの国々に比べると、その数は圧倒的に少なかった。ただ感心したことにこの国の人々は、信号を良く守る。車であれ、歩行者であれ、じっと気長に待てる人達である。斜めはすの信号がオレンジにかわったらもう飛び出していたり、赤でも車が来なければ悠々と渡る不心得者は全く見当たらない。このことは、この国の人々が如何にのんびりした環境で生活しているかということの現れなのであろう。

今日の日課は午前が日本大使館の表敬訪問と事業説明、午後からはいよいよシャックの建設である。

運転手の説明によると昨夜の爆発音や爆竹のような音は、やはり銃撃戦の音であった。何でも、軍部の不満分子が武器庫を襲撃、武器の略奪をする事件が起こり、その収拾のための銃撃戦が市中心部であったという。昨夜はずっと外出禁止令が出ていたとのことである。ただ事件は完全に解決したため、早朝には外出禁止令も解かれ、全てが正常に戻っているとのこ

とであった。しかし、大使館を訪問した際、ホテルの移転の提案を受けた。現在のホテルから、各国の大使館や官庁の集中する security が厳重で、日本大使館にも近い地区にあるホテルに移転した方が安全ではないかということで、早速に指示にしたがった。

他にも、交流活動をする予定であった首都にあるワガドグ大学にも不穏な空気があり、学生の学内立ち入りは少し以前から禁止となっている。そのため、本活動の主目的である日ブの大学交流事業はキャンセルとなってしまった。

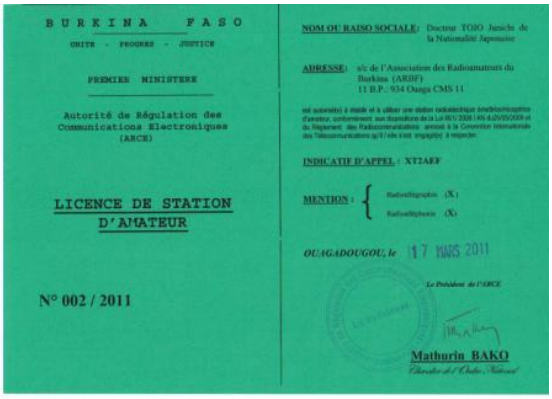
あれや、これやの中、プール付のフランス風レストラン（聞こえは良いが決しておしゃれで清潔なところではない）での昼食の際、中野先生はこのまま抗争が静まらなければ、撤退すべきではないか、「皆さんどう思う？」とやや blue な表情をみせておられた。責任者としては当然のお考えと尊敬したが、私は一人でも予定の日までは居残りますとの意見をのべさせていただいた。

ホテルの引越しでシャックの設営に取り掛かったのは午後もだいぶ過ぎてからになってしまった。

昨夜の銃撃戦は全て解決、と、この国の政府は発表したということだ。しかし、我々の常識からすれば、判りました、と素直に安心していられる状態ではない。我々の拠点となるホテルはより安全なものに、そして日本大使館へも労せずして逃げ込める距離に移動しておこうとしたのは至極当然の判断だ。ただこのハップニングのために想定外の時間を費やしてしまった。シャック設営のための時間ができたのは 23 日の午後 3 時過ぎになっていた。

なるほど事のなりゆきからはそうなったが、シャック設営をどこで、どのように進めるのか、ましてや運用がどのような形で何時から可能なのかは全く闇の中だった。ただ、調達したランクル内は各自の機材が詰め込まれたトランクや HF のアンテナパーツ、ポール等で扉を閉めるのも窮屈なありさまだった。

さてここで、かねて連絡をとりあってきた同国アマ無線連盟会長の Pooda さんの指示どうり、準備万端整った件を連絡した。しばらくすると 2m と思しきアンテナをトランクに立てた乗用車がやってきた。真っ黒で 190cm は悠にあろうと思われる青年が茶封筒を手にニコニコしながら降りてきて差し出した。何だろうと開けてびっくり、緑色二つ折りの従事者免許証である。そこには XT2 その後に各人の JA のサフィックスと氏名がしっかり記入されている。(Fig.7)


BURKINA FASO

UNITE - PROGRES - JUSTICE

PREMIER MINISTERE

Autorité de Régulation des Communications Electroniques (ARCE)

LICENCE DE STATION D'AMATEUR

N° 002 / 2011

NOM OU RAISO SOCIALE: Docteur TOJO Junichi de la Nationalité Japonaise

ADRESSE: s/c de l'Association des Radioamateurs du Burkina (ARBF) 11 B.P.: 934 Ouaga CMS 11

INDICATIF D'APPEL : XT2AEF

MENTION : Radiotélégraphie (X) Radiotéléphonie (X)

OUAGADOUGOU, le 17 MARS 2011

Le Président de l'ARCE

Mathurin BAKO

Fig. 7

わー、これでとにかくこの国から波を出すことはできる。だんだん気持ちが高揚してくるのを覚える。我々の間では、「あの人、電監のひと？」さっぱり判らないまま突っ立っていると、青年はスタスタと自分の車に向かい、手招きで付いて来いといっている。身動きもできず、後方の視界も全く利かないランクルがその後を必死で追いかける。乗っている我々も彼の車を目で追うのがやっとだ。と、車は幹線からそれ、もうもうと土ぼこりをあげながら曲がり角を二度三度と

まがる。恐らく空港と市街地の間に位置する住宅街なのであろう。しっかりした塀に囲まれ、緑の木々の配された土地が並ぶ一角で若者の車は停車した。とにかく砂埃っぽい。車も、木々の枝葉も、建物も、塀もあらゆるものがうっすらと細かい砂埃に覆われている。もちろん路面も一面、茶色の細かい砂とも土ともつかぬ状態だ。大雨でも降れば、強い風でも吹けばとあらぬ心配が脳裏をかすめる。あたりは以外に静かで人が行き来する様子に乏しい。暑いからか。塀は背丈よりも高く堅固なもので、その一角には車が充分出入りできる鉄扉があった。塀には番地を示すのであろう、数字が配されている。ベルを押す。何の返答もない。彼の大男、携帯をかける。ようやくくぐり戸が開きスラットした背の高い女性が顔を出す。委細心得たとばかり、我々を内部へと案内する。立ち居振る舞いからみると、この大男さん、電監のお役人ではなく、Pooda さんの会社の人らしい、女性もそのようだ。塀は四方を囲んでいるが 200 坪はあろうか。キョウチクトウに似た細く濃い緑の葉の茂る植木など敷地を取り巻くように配され、中央に平屋石造りの家屋（Fig.8）、庭の片隅には萱と思しき植物で葺いた屋根のある吹き抜けが、そして平屋の上にはPoodaさんがかねてから言ってき

Fig. 8

Fig. 9

たタワーが建っている(Fig.9)。もう一台、庭先にランクルが止めてある。それが庭の利用に何ら不都合を与えないということでこの宅地の広さを想像できよう。どう見ても住居だ、それも当地とすれば相当高級な。かってどなたかの生活が営まれていた？Poodaさんか、、、、リビング？ラウンジ？があり、キッチンがあり、ガスが使え、充分とはいえないが水道が出る、トイレにシャワーまである。奥にはそれと見てわかるシャック向きの部屋がある。まだその奥にも部屋はあるようだがもうこれで充分だ。シャックには大きなテーブルもあり、仮眠用のベットまで。これだけあれば何の不足もない。電源はとあたってみるに当然のことながら 200V。ところがこの電源に振り回されることになろうなど、この時点で誰が想像したであろうか。

舞台は上々、各自持ち込んだトランクを開き、rig 一切をテーブル上に並べ結線するのみ。ラウンジは車から降ろされたトランクや機材で一瞬にして足の踏み場もないくらいにひっくり返った。誰が言うでもなく皆もくもくと荷をほどき、機材を庭に持ち出すやら、シャックに運び込むやら。初対面の女性、挨拶もそこそこに、あっけに取られてソファーに腰を下ろしキョトンとした様子であった。

我々はここで UHF バンドを使って無線 LAN の実験をする班と、HF での DX 通信をするため主に HF 関係の用意をする班に分かれて仕事にとりかかった。HF 用のアンテナは 75m 40m を I.V.に、20m から上はミニマルチアンテナの HX52A を持ち込んだ。I.V.アンテナは給電点を持ち上げるだけで簡単だが、ビームアンテナにてこずった。組み立ては出発前にも予行演習をして何ら問題は起こらなかったが、小さいといってもブーム長 2.3m、6m 超え四本のエレメントを持つアンテナをステーだらけのタワー上に持ち上げるのはことのほか困難をともなった。先に従免を届け、我々をこの場所まで先導してくれた屈強の青年はタワーの仕事が始まるまで、例の萱葺きの吹き抜けの下で談笑していたが、ビームアンテナを持ち上げる時点になってタワーの下に駆け寄ってきて何か盛んに言っている。”Security! Security!”

何を言っているのか判らずポカンとしていると、安全ベルトをしていないというのだ。「一寸待って！」10 分もしないうちに安全ベルトを二本どこからか持ってきて、さっさとタワーに登り、ここで良いかとの手振りである。だがその先が全く進まない。こっちのステーをかわしたら、あっちのエレメントがひっかかり、あっちをかわしたら又こっち。とうとう give up。ANT を屋根に降ろした時にはエレメントがかなり変形してしまっていた。彼曰く、明日はエレメントをばらしてもって上がりタワー上で組み立てようと。でもなー、タワーの一番てっぺんまで持っていかないとステーの問題は解決しないしなー！！！あたりはもうすっかり真っ暗になってしまっていた。

そこへ運転手氏が急ぎ足で駆け込んできた。「市街地の様子がおかしい、とにかくホテルに帰りましょう。今夜は外出しない方が良い」

さてさて、また暴動騒ぎか！ということで、この日は結局 on air 出来ず。夕食にもありつけず、ホテルの部屋でカップラーメンをすすって寝るはめに。この夜は銃声もせず静かに過ぎたようだった。

このホテルは最初のホテルに比べ規模も大きく EU や JA の中堅以上のホテルに比べても何ら遜色はない。丁度国内サッカー大会が開催中とかで、様々なユニフォームを着た選手団が宿泊しているようで非常ににぎやかだ。ここなら安全は第一に確保されるに違いない。ひとまず安心だが困ったことに、ここでも英語はさっぱり通じない。ラーメンの水ひとつ手に入れるにも手振りで一苦労した。

翌日 24 日も早朝から雲ひとつない。暑くなりそうだ。フロントで外出できる？と身振りで尋ねると OK と。暴動は無かったようだ。例によって一時間ほどの朝の散歩を楽しむ。出来るだけ普段着で、帽子とサングラスで素性をごまかそうとするが何となく雰囲気が違うのであろう、何人かに１人はチラチラ振り返って行った。(Fig.10)

さて今日こそはビームアンテナを揚げて運用にかからねばという強い気持ちで午前 8 時にホテルを後にした。皆が気を使う割には街中は

Fig.10

普段と変わりなく活気に満ちている。シャックに着いた時にはすでに昨日の大男さんも、レデイーさんも来ていた。今日は他に1人、若手のエンジニアらしき人物も手伝いにきてくれている。(Fig.11)

Fig.11 左から JO3XYZ, JO3VVO,現地スタッフ, JH3AEF, JA3VWT 中野教授

Poodaさんには感謝感激である。以前自分の会社の若い者二人を手伝わせるようなことを言ってくれてはいたが、これほど手回し良くとは思ってもいなかった。一度として会ったことのない我々に、何という寛大さ。本当に有難い。Poodaさんはまたユーモアもある人で、我々の食事の世話をしてくれている女性についても話してくれていた。二人必要なら二人、もっと若い lady がよければすぐ mail をくれよとかも。いや、本当に面白い人。人柄がしのばれる。何の何の、今来てくれている女性、身長はすらっと高く、子顔で髪は短くこざっぱりまとめている、目はパッチリとして実に愛らしい顔つき、顔も肢体もふっくらと女性らしく、細身でノースリーブのワンピースを着ているものだから男所帯の我々には何よりも心和む存在である。その上、控えめで何をするにも少々恥じらいながらの仕種は、今の日本では失われつつある女性像をこのアフリカの地で見たような気がした。(Fig.12)

Fig.12 食事の世話をしてくれた女性と中野教授

ふっと我に帰って、日本でやる field day なんかより何十倍も豪華な顔ぞろえだなあ。

さて早速作業にとりかかる。すでに太陽は高く、ギラギラと大地を照らすが、さすが午前中とあって午後からのどうしようもない状況よりはかなり作業効率が良い。現地人二人の応援も得て仕事は楽になったが、ステーの問題が解決したわけではない。何度かの試行錯誤のうえ、ビームアンテナは欲張らずステーが裾を広げる低い位置に固定することにした。それでもエレメントの先端がステーに近付き過ぎるがどうしようもない。JA からは SP315 度だからこちらからは 125 度。しかしステーの関係でどうしても JA に向けることが出来ず北による。もちろん回転も不可能だ。それでもはるばる日本から持ち込んだビームアンテナをあげることができたのだから万々歳。I.V.ant はアナライザー片手に 75m 用の先端を少し曲げた程度で容易に張ることができた。タワーの最上部に近いところに 75m の I.V.給電点、それからやや下がって 40mI.V.給電点、それから下がること 4m ほどにビームアンテナのブームと、アンテナ群としてはまとまった形に完成した。(Fig.13)

シャックの側から夫々のバンドをチェックするに、どのバンドも気に入らない。そんなことはな

Fig.13

い筈。ステーが影響しているに違いない。一寸方向をずらしてみる。まだおかしい。

ええー？一体なんでや？？？

屋外に出て同軸をたどってみる。間違ってました！！！よっしゃ。午前といえども 40°C を越す酷暑のもと、間違いもあるは！！！

もう一度確認。20m は気に入らないが、それでも他の band は全て合格。アースもきっちりとる、こんなパサパサの砂地にアース棒を突っ込んで役に立つのかな？20m はエレメントの先端がステーに近すぎるのが原因なことは明か、リニアー、THP 社 HL550FX、も保護回路が働いて遮断されてしまう。MIC gain を絞るなり何なりして対応していくことに。今日は朝からどんどん作業がはかどり 11 時前には on air を待つばかりの状態にこぎつけた。(Fig.14)

Fig.14

さていよいよとシャックに座ったところで気がついた。今日は朝から停電である。こちらでは停電は当たり前。全く無計画と思えるほど何の前ぶれも無く昼夜を問わずやってくる。またそれが何時間続くのか計画性も全く無し。停電のことなどすっかり忘れて作業していたが、やっと on air 出来るところまでこぎつけての停電にはがっくりである。おかげで女性が作ってくれたポテトのフライと川魚の煮つけの昼食はゆっくり堪能することができた。海のないこの国の魚、漁が出来るほどの大河はこの砂埃の環境からは想像もつかない。だいたい野菜類が栽培できる環境があるのだろうか？等など、あらぬことを考えながら電気を待つこと数時間。2時になっても3時になってもまだ停電。薄情にも程がある。ようやく電気が来たのは午後も遅くなり 5 時に近くなってからであった。直ちに rig,amp を稼動させる。20m を除き各バンドとも良好な状態を確認。我ながらかなり緊張していることを感じながら夢にまで見た XT2AEF on air の瞬間となった。時刻は 3 月 24 日午後 4 時 50 分、現地時間は=Z time である。矢張り先ず JA のことが頭をかすめる。向こうは真夜中、とてもつながる時間帯ではない。信号がちらほら聴こえる17m でCQを、JA に向けたかったビームの向きはどちらかといえば EU に悪くない方向に固定されている。ガツーンとＩ０が、続いてＩ３が、UT4、DM1、UA3、G1、と当然のことながら EU 全域からのパイルアップが始まった。待ってました、パイルアップになるのは望むところ。コールサインを何度も聞き返すようでは甘く見られる。神経を集中して敢えてオンフレで押しとうす。それにしてもどえらいパイルになったなあ。さっそく DJ9ZB のような大物のコールサインも混じる。Danke shoen

OM！パイルの中で Pedi 局が長々と喋るのは、呼ぶ側からするとあまり感じの良いものではない。と感じているのは私だけか？滅多に呼ばれる側になれない、そして呼んでも呼んでも拾ってもらえない私のひがみ根性のあらわれか。とにかく一局でも多くサービスすることが私がここに来た趣意なのだ。出来ることならそのように運用したいという強い思いでこの国に来たのだから、パイルになるほど有難いことはない。今回は紙ログでと決めてきたが頁は瞬く間にうまっていく。17 時 35 分、ここまでは全て EU の局であったが condx はやや下がり気味になる。20m をのぞくが余りにも静かなのですぐ 15mに QSY して CQ をだす。待ってましたとばかり瞬時に pile up が始まる。DL3、OK3、IK1、F3、EA3、しかし 18 時を過ぎる頃には fade out。下の band に下がって 40m を watch するが EU がパラパラと聴こえるのみ。そして呼べども呼べどもなかなか応答がない。形としてはきれいに張れた I.V.ant. ではあるが、さすがに多数張られたステーに埋もれるようになっている状態では飛びが悪いのは致しかた無いのだろう。75m も同様で夜間にかけての low band での運用は苦労しそうである。それでも今夜は over night で頑張ろうとしていた矢先、20 時 20 分、又もや停電となってしまった。仕方無しにシャックの仮眠ベッドで横になる。

屋内といえども涼を取る為には入り口のドアーも窓も開放しておかなければならない。我々は手に、腰に電池式携帯蚊除けを巻きつけ、床にもやや大きめの蚊取りを幾つも置いているが現地の人は全く気にしている素振りも見せない。一体どうしているのだろうか。彼等に日本から持ってきた渦巻き蚊取りを見せ反応をみた。手に取り、匂いをかぎしていたが何だか判らなかったようだ。しかし、用途を説明し草から作るのだと説明すると、彼等も同様に植物で同じ目的のものを作るのだと話してくれた。あたりが暗くなってから、1人で徹夜覚悟の私を残し、食事の世話をしてくれる女性も帰宅し、一時、私1人になったが、夜遅く Pooda さんの甥に当たるという青年が泊まりにきてくれた。電気工学の夜間授業を終えてきたと話す好青年で唯一英語の通じる人物である。現地の除虫菊まがいの話は彼がしてくれた。

Over night で頑張る予定だったこの夜、電気がきたのは翌朝 25 日の午前 6 時半に近くなってからであった。いつ電気が来るか気にしながらの睡眠は熟睡ではなかったが、たとえ浅くても睡眠できたことは健康の面では有難いことであった。

冷蔵庫に残された、電気が来ないのだから温蔵庫、昨日の夕食の残りをほおばりながら 20m をのぞいてみた。EU が VK、ZL と盛んに contact している。邪魔にならないように CQ を出すも XT からは VK、ZL とはうまくつながらない。Beem の方向もあらぬ方向なのだから仕方がないのだが。後日、後方視的にみて、このときもう少し粘って VK を拾っておけばよかった。何故なら今回の運用で VK が無く WAC が完成しなかったからだ。

さてこの時間、17m もまだ開けていないので 15m で CQ を出す。次第に pile up となる。EU の中に 4X、5B、ZS、A4 なども呼んでくるが、XT との位置関係から言えば何等不思議なことではない。しかし、condx は微妙に変化し、pile up の中に UA9、UA0 の prefix が聞かれるようになってきた。細心の注意をはらいながら pile をさばく。07:59, JA では 16:59 納得のこの時間に遂に JA1 の callsign を確認、耳をそばだてるに

JA1BPA ととる、53 を送り 45 が送り返されてきた。

目に、胸に熱いものを感じ声が震える。Any JA? JA!JA!を連呼するも他に確認することはできなかった。Asiatic Russ.UA9 は 08:16Z まで入感していた。約 2 時間 30 分の送電の後 08:55 再び停電になってしまった。もてあそばれるように 09:40 通電、09:45 停電、しかしこの僅かの時間に 12m で VU2RBI の CQ を聞き懸命に呼び contact することができた。数年前、大阪国際交流センターで開催された APDXC の会場で eye ball Q した VU の女史である。JH3AEF、JI3ZAG のメンバーであることを告げると、何を勘違いしたのか VU 移動と勘違いしていたらしく、アフリカからの on air であることを告げると大層驚いた様子であった。

こともあろうに、この日、次に電気が来たのは 22:58、朝早くから夜遅くまで一日中停電で、貴重な一日をどうすることもできなかった。

また 25 日(土)は CQ WPX contest が始まり WARC band 以外での運用は非常にやりづらくなった。22:58 に通電が始まったものの開けている 75,40,15 の各バンドでは contest のため実績が上がらないまま 02:25、約 3.5 時間の通電の後、再び停電してしまった。しかし、この間、75m,40m band では、丁度 JA では早朝で DX time にも当たる時間帯である。75m band はやや遅すぎる感じがしないでもなかったが JA4 の big gun、5 や 0 の常連 DXer の信号を捜したが聞くことはできなかった。充分高い確率で信号を聞ける筈だったのに残念。時間がほんの少し遅すぎた。続いて 40m band の上のほうを watch してみて驚いた。JA1,6,/3 の局の round QSO が完全に了解できる状態で入感している。特に JA1 の局は PW も入っているのであろう。S メーターが大きく振れている。思わず BK を入れるも全く気付かぬ様子。それならと AF、AF をことさら強調するも結果は同じこと。聞いて知らんふりをするほど人の悪そうな連中でもなさそうなのに。またまた「ひがみ」が出てしまいました。失礼。

次に電気が来たのは 26 日 06:02 であった。停電、停電であたふたしているうちに、今日はもう帰国の日になってしまった。とにかく電気が来ているかぎり、空港に向け出発するまで頑張らなければ。

06:02 の通電当初、開けている 15m band で運用を開始したが、contest のため効率上がらず。午前 10 時前から 17m band が次第に開け始めたため QSY する。11:17 JH4ADV を皮切りに 12:31(21:31 JA time)までの間に 7 局の JA 局と contact を果たすことができた。

Contest 中も快調に進んだ 17m band であったが、13:30 に再度停電となり、次に通電したのは 15:48 分。今夜の便に乗るとなると少なくとも 18:00 頃には QRT して食事もしなければならないし、荷物の取りまとめもしなければならない。ただ、残留組もいるので完全撤収の用意まではしなくてもよくて助かった。

今日は午前早くから 17m band で頑張ってきた。WARC band 以外は contest でごったがえしている。そこで、ラストスパートは 12m band で締めくくることとした。Band condx も丁度 high band に移りつつあった。Band が open してしばらくは当然のように EU が pile up をなしたがその中に W6 の信号を確認した。南北アメリカ大陸がどちらから開けていくのか定かではなかったが、恐らく北から南に向け開けていったように感じた。すなわち、呼び続ける EU の中から次に拾い上げたのは W4、FM5、KP4 そして PY、LU と。

17:20～30 にかけ JE1 の prefix を聞いたが safix の確認には至らなかった。続いて 9M6 と contact したので、condx の変化としては納得のできる結果となった。南北米大陸は地理的には AF からも比較的近く、弱いながらも相当長時間にわたり入感しており、18:11 の K8 との記録が残っている。その割に contact が少ないのは EU の壁によるところであろう。予定を 15 分超過し、促されて 18:15 分に mic をおいた。

運用に呈した時間は 3 日間、停電の時間を加味すると HF 帯運用に供した時間は 36 時間 50 分、XT2AEF の HF 帯での contact 数は 581、contact entity 数は 57 であった。詳しくは別表に示した。

停電には苦しめられどうしの on air であったが、私としては実に充実して楽しい on air であった。XT2 という見も知らぬ AF の rare entity から正式に on air 出来るという事は、熱砂の環境も、黄熱病にマラリヤの危険因子も、全く不便な水事情も、食べ慣れない食事事情も、言葉の問題も、政治情勢の不安定さも、何があったにせよ私を押し留めることのできない強烈な魅力であった。

国難とも言うべき大震災、津波被害、原発事故が発生した最中での行動であり、如何にもアマチュア無線活動ですと予告できる環境にはなく、対外的には何の予告もせず、支援もなく実施した XT2 行であった。とても PEDI といえる装備や構成ではなかったが精一杯頑張ったという達成感だけは充分に感じ取ることができた。今もその余韻は体中に心地よく残っている。夢よもう一度は欲張り過ぎであろうか。

稿を終わるにあたり、またとないこの機会をお与えいただき、あらゆる困難な外交折衝を望むままに叶えていただいた関西学院大学大学院総合政策学部教授、JI3ZAG 会員、JA3VWT 中野幸紀教授に、そしてまた XT2 での我々のアマチュア無線活動に公私共に無類なきご援助を賜った同国アマチュア無線連盟会長 Hugolin Pooda 氏と彼の会社のスタッフ達に、また現地での設営、運用に幅広くご協力いただいた JL3YJF 関西学院大学ラジオクラブ会員、JO3VVO 仲田周祐、JO3XYZ 西尾 実の両氏に心より感謝を申し上げる次第であります。

結果報告

XT2AEF の HF 帯での 総 contact 数 581
総 entity 数 57

QSO は全て PHONE（私の CW 技術では PHONE の方が遥かに効率が良い）

BAND 毎の contact 数

75m= 2　40m= 6　30m= 0　20m= 4
17m=239　15m=142　12m=188　10m= 0

各 entity 毎の contact 数

I	97	OH	9	S5	5	FM	1
DJ	61	OZ	9	EA6	4	GM	1
U(E)	39	9A	8	GI	3	HB0	1
UR	36	PA	8	GW	3	HZ	1
SP	33	HB9	7	LU	3	LY	1
F	26	OM	7	YO	3	LZ	1
G	24	YU	7	YV	3	UN	1
EA	23	EA8	6	5B	2	TK	1
OK	20	HA	6	ZS	2	XE	1
SV	17	KP4	6	4X	1	YB	1
W	13	LA	6	9M	1	YL	1
JA	12	PY	6	A4	1	VU	1
ON	11	SM	6	A7	1		
OE	11	CT	5	CU	1		
U(AS)	11	ES	5	E7	1		

庶務とMARSニュース

入・退会、コールサイン、住所の変更などの事務手続きはMARS事務局へ。

（事務局）
〒175-0092 東京都板橋区赤塚4－17－11
井上医院内
日本医師アマチュア無線連盟
電　話　03-5968-5777
ＦＡＸ　03-5968-5778
E-mail　fumimasa@cb3.so-net.ne.jp

MARSニュースへの御寄稿は、

〒640-8331
和歌山市美園町5－1－8山榮ビル3階
眼科田中クリニック内　MARSニュース編集部
電　話　073-427-3010
ＦＡＸ　073-427-2135
E-mail　marsnews@tanakaclinic.jp

まで、お送りください。

パソコン（またはワープロ）の場合、再入力の手間を省くため、フロッピーディスクもしくはCD-Rの郵送、またはE-mailでお送りください。特殊記号などが文字化けすることがあり、プリントアウトした原稿もファックスまたは郵送してください。

手書き原稿もOKですが、なるべく上記の方法でお願いします。

写真は紙焼きの郵送でもE-mailでも結構ですが、高画質画像をMOまたはCD-Rに保存してお送り下さると、さらにFBな仕上がりになります。なお、紙面の都合により、原稿を短縮させていただいたり、写真の選択やトリミングをさせていただくことがありますので、ご了承ください。

新入会員

JP7DMV　姉歯　秀平　先生
宮城県登米市

JO3VKD　村田　雄二　先生
大阪府豊中市

物故会員（平成22年～23年）

JA7RTM　星　康人　先生
JR3HGY　土屋　忠彦　先生
JM7USW　佐藤　幸弘　先生
JF1EJS　奥谷　雅生　先生

第36回 MARS 総会のご案内

平成24年6月9日（土）大阪市にて開催
講演　JA3AOP　杉山　暁　OM
大阪大学工学部通信工学科卒
「HAMに役立つソフトあれこれ」予定
6月10日（日）　エクスカーション
夢のシャック訪問と鯛料理　淡路島

日本医師アマチュア無線連盟会報
（第71号）
発　行：日本医師アマチュア無線連盟
発行日：平成24年3月11日
編　集：田中憲児(JF3JON)
印　刷：西岡総合印刷株式会社
Tel073-425-1341 Fax073-436-0855
URL　http://www.nishioka.co.jp/
E-mail　info@nishioka.co.jp